

海岸を活かした地域活性化の 支援方策に関する試論

水循環・まちづくり・防災グループ
研究員 北澤 史

発表の流れ

- 1 . はじめに
- 2 . 海岸を活かした地域活性化の課題抽出
- 3 . 特色ある地域活性化の取組事例
- 4 . 課題と支援方策
- 5 . おわりに

1. はじめに

1-1. 様々な表情を見せる日本の「海岸」



浄土ヶ浜 (岩手県宮古市)
出典：宮古市



天橋立 (京都府宮津市)
出典：天橋立観光協会



白良浜と温泉街 (和歌山県白浜町)
出典：白浜観光協会



大洗海岸サンビーチ海水浴場
(茨城県大洗町)
出典：(一社)大洗観光協会



馬ヶ背 (宮崎県日向市)
出典：(一社)日向市観光協会



与那覇前浜 (沖縄県宮古島市)
出典：宮古島市

1-2.研究の背景

□「観光資源」の観点から日本のビーチへの期待

- 観光庁 2018年3月～

通年利用アクティビティの充実、人が集まる仕組みの検討

- 海岸4省庁 2018年10月～

2019年1月『砂浜の利活用の更なる促進に向けて～地域に根ざし、グローバルに拓けた「ビーチリゾート創出」を目指して～』を公表

□「海岸×地域活性化」に関する研究の不足



海岸活かした地域活性化の取組の収集・実態解明が必要

5/26

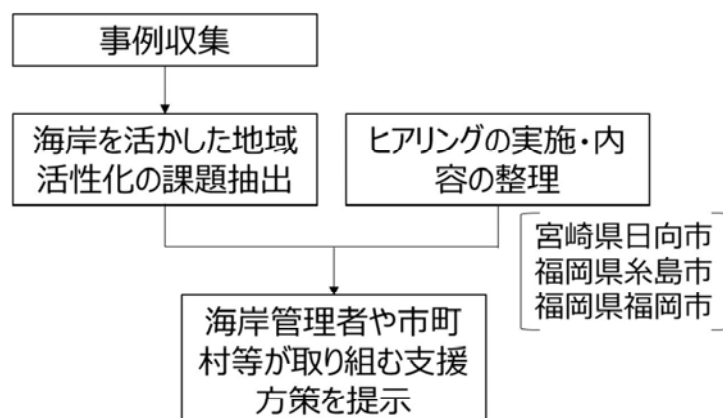
1-3.研究の問い・目的

【問い】

各地では海岸を活かしたどのような地域活性化の取組が行われているのか？何が課題となっているのか？

【目的】

地域性を踏まえて、利活用促進に向けた海岸管理者が行う施策の方向性を提示



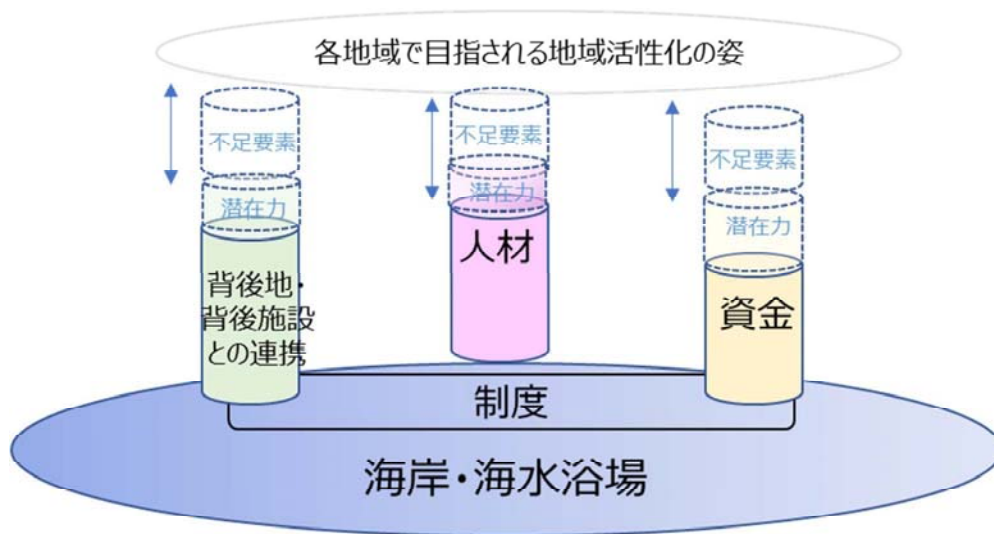
6/26

2. 海岸を活かした地域活性化の課題抽出

2-1. 海岸を活かした地域活性化とは

□ 地域活性化の3要素

- 人材、資金、背後地・背後施設との連携



出典：（公財）リバーフロント研究所作成

2-2.地域活性化の取組段階の設定

□ 取組段階の設定



出典：（公財）リバーフロント研究所作成

9/26

2-3.研究対象とする海岸の選定

- 分析対象 216海岸（国総研砂浜データベース登録データ 805海岸のうち海水浴場利用者数データが存在する海岸）
- 利活用の指標：海水浴場利用者数の経年変化
国内主要旅行雑誌・サイト掲載社数
⇒18海岸を選定（課題抽出）
- 「人材」「資金」「背後地・背後施設との連携」等に関する留意・考慮すべき事項（47項目）を抽出し、チェックシートを作成

10/26

3 . 特色ある地域活性化の取組事例

3-1.ヒアリングの実施概要

- ・ ヒアリング対象：市役所の観光商工、企画政策部局の担当者

海岸・海水浴場名	①お倉ヶ浜 金ヶ浜	②糸島半島 (二見ヶ浦) 芥屋海水浴場	③糸島半島 (西浦地区) 百道浜 志賀島海水浴場
地方公共団体名	宮崎県日向市	福岡県糸島市	福岡県福岡市
人口	6.2万人	10万人	159万人
政令市からの距離	141km (政令市:熊本市)	26.3km (政令市:福岡市)	0km (政令市:福岡市)
海水浴入込数 (5年間増減率)	◎お倉ヶ浜海水浴場 ・H28年度 実績:1.8万人 増減率(2018/2013) は120%	◎芥屋海水浴場 ・H28年度 実績:4.0万人 増減率(2018/2013) は105%	◎志賀島海水浴場 ・H28年度 実績:2.4万人 増減率(2018/2013) は60%

出典：国土地理院地図、グーグルマップをもとに作成

3-2.宮崎県日向市（お倉ヶ浜・金ヶ浜）

□ 2015年～現在

サーフィンを核とした地域活性化を目指し、認知度の向上に注力

□ 2016.12～ポータルサイト開設

- プロによる情報発信

効果：

- アパレル企業との商品提携
- 世界ジュニアサーフィン大会のアジア初の開催
- 民間投資の増加
- 移住者の増加：2016～2018年に88世帯148人



ポータルサイト



オリジナルグッズ

出典：日向市



海沿いの商業施設



ゲストハウス&カフェ

13/26

3-2.宮崎県日向市（続き）

	既に有している能力	不足要素	潜在力
人材	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>情報発信は専門家集団を活用</u> ■ 行政職員は部局を超えた協力体制 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>幼少期からの海との関わり不足</u> ■ 地元ガイドや通訳の不足 	-
資金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地方創生交付金の活用と複数年度の業務発注 ■ <u>認知度向上により、民間参入が増加</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域内外の旅行会社との連携 ■ <u>ハード面（看板、ベンチやデッキ等の施設）の整備に必要な資金の獲得</u> 	-
背後地・背後施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海辺の国道沿いに商業・観光施設開業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サーフィン以外の地域資源の発掘 ■ 海岸の多面的な利活用が未着手/未実施 ■ 次の段階に向けたハード面が未整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちなかでのイベントの開催を牽引する観光協会や商工会議所等との連携
制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市街化調整区域の許可基準第34条第9号（沿道サービス施設）を活用 		14/26

3-3.福岡県糸島市（糸島半島二見ヶ浦・芥屋海水浴場）

□ 福岡市との近接性と、海や山などの恵まれた自然環境

- 2010.11の合併により海岸線、田園、中山間地域を含む

□ 1990年桜井二見ヶ浦にサーファーがカフェが開業

2002年～芥屋海水浴場でのサンセットライブ

2008年～糸島クラフトフェス、2010年～糸島三都110キロウォーク

効果：

- 移住者の増加、移住したい街No.1
- 観光客の増加：259万人（2000年）⇒648万人（2017年）



サンセットライブ



クラフトフェス



桜井二見ヶ浦夫婦岩

出典：一般社団法人糸島市観光協会

15/26

3-3.福岡県糸島市（続き）

	既に有している能力	不足要素	潜在力
人材	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地元と移住者の交流と連携 ■ 地域おこし協力隊の活用 ■ 地元の環境ボランティアやサーファーによる砂浜の自主的な環境維持活動 ■ まちなかでのイベントの開催を牽引する観光協会や農業生産者団体等との連携（ex.農産物直売所、マルシェ、食の祭典、クラフトフェア等） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>幼少期からの海との関わりの不足</u> 	—
資金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地元企業や移住者等による商業・宿泊業への参入 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>民間事業者の砂浜でのビジネスが未着手</u> 	—
背後地・背後施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海から山までを含む多様な地域資源のパッケージ化、ブランド化 ■ 海辺のカフェやゲストハウスと連携したイベントの企画や運営 ■ 海水浴場の背後地と海の家経営者の「民－民連携」による海水浴場の秩序維持 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>関係法令の複雑さ</u> ■ 海岸沿いの県道の渋滞 ■ 海水浴場の騒音 	—

16/26

3-4.福岡県福岡市（糸島半島西浦地区、百道浜、志賀島海水浴場）

□ 豊かな自然と充実した都市機能

釜山との国際定期航路をもつ博多港、市街地の百道エリア、東側の志賀島、西側の糸島半島に位置する西浦地区

□ 糸島半島西浦地区：玄海国定公園に指定

効果：

- 人口増加数・増加率（2010～2015年）が政令市中1位



海沿いのリゾートモール



砂浜の撮影スポット



海を背景としたカフェ

17/26

3-4.福岡県福岡市（続き）

	既に有している能力	不足要素	潜在力
人材	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>西浦地区では、移住者の視点も盛り込んで賑わいを創出</u> ■ 地元の環境ボランティアやサーファーによる砂浜の自主的な環境維持活動（清掃や不法投棄の注意喚起） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>高齢化が進む地域の住民主体の協議会では、若者やヨソ者の連携が不足</u> ■ 移住者の交流と連携が活発な地域では、地域住民との連携が不足 	—
資金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地元企業や移住者等による商業・宿泊業への参入 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢化により海の家^{（注）}の存続が困難 ■ <u>民間事業者の砂浜でのビジネスが未着手</u> 	—
背後地・背後施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海岸沿いの国道での商業・観光施設の開業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>関係法令の複雑さ</u> ■ 海岸沿いの県道の渋滞 ■ ごみや釣り針の不法投棄 	—
制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市街化調整区域の許可基準第34条第9号（沿道サービス施設）を活用 ■ 市街化調整区域内における土地利用の規制緩和を活用 	—	—

18/26

4 . 課題と支援方策

4-1. 課題

(1) 人材面

- ① 民間事業者の海岸利活用への関心が希薄
- ② ふるさと愛を育む幼少期からの「教育」が不足

(2) 資金面

- ① 民間事業者の砂浜での商業・宿泊業等への参入が困難
- ② ハード面の整備に必要な資金が不足

(3) 背後地・背後施設との連携面

- ① 砂浜の利活用之际し海岸沿いの施設との連携が不十分
- ② 必要なハード面の整備が不足

(4) 関係法令の調整

- ① 海岸の利用や管理に関するルールや管理主体（許可権限者）が複雑でわかりづらい状況

4-2. 支援方策

(1) 人材面

- ① 民間事業者が利用促進を図っていてもよい海岸（区域）を設定し、「海岸利用不動産情報」（仮称）を作成・発信
- ② 年少時から海岸への関心を惹起するため「みんなの海岸、まなびの海岸」（仮称）を制度化

(2) 資金面

- ① 民間の海岸利用を募る際、背後地と一体で企業利益を上げることを許容し、民間企業活動等を積極的に誘導
- ② 海岸は、地域の魅力の一要素であるとの観点を重視し、地域の魅力ある施設に関するサイン、案内版等を地域全体で統一

21/26

4-2. 支援方策

(3) 背後地・背後施設との連携面

- ① 地域の一体感を高める個性的なイベントの企画、風物詩化
- ② 施設整備の検討段階から広く意見・要望等を拾い上げ、手戻りなく有効に活用される施設となるよう計画

(4) 関係法令の調整

- ① 現法令や制度下で実施が抑制されている事業、営業、イベント等を把握し、規制緩和／強化を想定した場合の法令や制度および周辺地域に対する影響を分析

22/26

5 . おわりに

研究のまとめ

【問い】

各地では海岸を活かしたどのような地域活性化の取組が行われているのか？何が課題となっているのか？

取組：

- 海岸の多様な魅力を活かし、他の地域資源とも組合わせて
シティプロモーションやイベント利用、維持管理を実施

課題：

- 民間事業者が海岸管理に参画できる枠組みや参画条件の把握と収益事業等の可能性の検討
- 日常的な海岸管理や利用促進（郷土教育も含む）に向けた行政、民間事業者、地域の役割分担の明確化と官民連携手法の検討
- 海岸の利用ルール、管理体制の把握と運用面の改善

参考文献

- 1) 特集海岸法の改正について:強靱な国土を目指して:河川, 70(9), 日本河川協会, 2014
- 2) 砂浜の利活用の更なる促進に向けて(提言)~地域に根ざし、グローバルに拓けた「ビーチリゾート創出」を目指して~:ビーチリゾートの創出に関する技術検討ワーキンググループ, 国土交通省, 平成31年1月
- 3) 塩見譲編:地域活性化と地域経営, 学陽書房, 1989
- 4) 小田切徳美:日本農業の中山地帯問題, 農業統計協会, 1994
- 5) 農業土木標準用語事典改訂5版, 農業土木学会, 2003
- 6) これからの移住・交流施策の在り方に関する検討会報告書, 総務省, 平成30年1月
- 7) 古川彰・松田素二編:シリーズ環境社会学 4 観光と環境の社会学, 新曜社, 2003

25/26

ご清聴ありがとうございました